

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会第21回定例会・会議録

- 1 日 時 平成17年2月2日(水)
- 1 場 所 柏崎原子力広報センター 2F研修室
- 1 出席委員 新野(新野議長)・今井・伊比・川口・佐藤・武本・高橋・田辺・  
中沢・本間・牧・宮崎・渡辺(丈)・渡辺(五)・渡辺(洋) 以上15名
- 1 欠席委員 浅賀・阿部・金子・小山・柴野・中村・丸山・吉田 以上8名
- 1 その他出席者 柏崎刈羽原子力保安検査官事務所 木野所長  
柏崎刈羽地域担当官事務所 早川所長  
新潟県 原子力安全対策課 谷中課長 小島主任  
刈羽村 企画広報課 吉越副参事  
西山町 まちづくり推進課 徳永課長  
東京電力(株)広報部地域共生室 長野室長  
東京電力(株)安全担当 西田部長  
東京電力(株)地域共生室 下條主任  
柏崎市防災・原子力安全対策課 名塚係長 関矢主査  
柏崎原子力広報センター 押見事務局長(事務局・司会)

事務局（柏崎原子力広報センター）

御欠席の連絡でございますが、浅賀委員、阿部委員、柴野委員、丸山委員、吉田委員、計5名の方が今日は御欠席でございます。

それから、遅れるということで御連絡がありました方は3人ほどおられまして、その他にまだ3人ほどお見えになっておりませぬけれども、今ほど申し上げました天候の件もありますし、時間が来ておりますので始めさせていただきたいと思っております。

それでは、議長、よろしく申し上げます。

新野議長

本当に思わぬ悪天候が続いていますけれども、皆さん、委員から反省を求めましたら、時間厳守という複数回答がありましたので、今日は特に時間厳守をしたいと思っております。

21回の定例会を始めますけれども、まず、ちょっと時間配分だけ念のため御承知おきいただきたいのですが、今、6時35分になりますけれども、そこから始めさせていただいて、3の閉会を9時には持っていきたいと思っております。視察とか、その他というのが、逆算していきますと、若干15分ぐらいいただくようになるかもしれないので、8時45分が（4）の位置に置いていただいて、その間が流動的なんですけれども、今日はオブザーバーの方からの総括ということをしていただくので、これもできれば十分時間をとらせていただいて、（3）の意見交換は前回もしていますので、これは引き続きということになります。8時45分ぐらいをめぐりに、簡単な、もう配付されていますけれども、アンケート自体が非常に簡単なので、参考程度の資料にしかならないかもしれないんですが、この席でご回答いただいて、できれば今日提出していただきたいと思っております。

では、早速ですが、議事の方に入らせていただきます。

前回の定例会以降の動きなんですけれども、県の方からお願い致します。

谷中課長（新潟県原子力安全対策課）

久しぶりに出させていただきました、県の原子力安全対策課の谷中でございます。

お手元の資料、前回定例会以降の行政の動きということで、二つ上げておきました。

この前、新聞、テレビにも載りましたのでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、1月25日、原災法に基づいて、柏崎刈羽原子力発電所に立入検査を行いました。この仕組みは前年度につくりまして、今回で、いわゆる定例の立入検査としては二度目ということになります。中身は原災法に基づいて事業者に義務づけられた原子力の防災組織がちゃんと規定どおりになっているか、そこに防災要員として人がちゃんと張りつけられているか、それから、法律に基づいて、放射線の測定装置だとか、防護服だとか、いろいろあるんですけれども、それが所定の数、決められたところにきちんと、それもその性能がきちんと保たれて置いてあるかどうかということについて検査を行いました。いずれも法律に基づいて良好にきちんとして行われているということを確認いたしました。

また、それは言ってみれば、この立入検査のほぼ定例の必須の内容なんですけれども、今回、さらにそれに加えて、この前の中越地震のときに一部で事業者からの地元自治体への連絡がスムーズにいけないところがあったわけですので、今回はそれに加えて、発

電所の、通称、緊急時対策室と言っているんですけども、その機能、それから、実際にそこから専用電話があるわけで、いわゆるホットラインと呼んでいるんですけども、そこから直接、実際に自治体にかけてもらって、スムーズに、きっちりと連絡ができるかどうかをやってもらいました。

ところが、これもきっとニュースに出ていたのでご覧になった方はいらっしゃると思うんですが、その有線のホットラインに加えて、もう一つダブルで衛星携帯電話がそこに設置されているんですけども、何と、私が県庁の原子力安全対策課にかけてみてくださいと言って、繋がりましたと言うから受け取ったら、別なところに繋がっているんですね。大変驚いたんですが。施設設備としてはきっちりちゃんとなっているんですけども、肝心のそれを使う方は、しかも実際に使う場合には、緊急、まさに迅速確実に行わなければいけないので、それが立入検査のときに私が指示したところと別のところにつながるというのは大変まずいわけで、検査の結果として、そういう施設だとか、設備だとかはきっちりなっているけれども、運用面、どういう場合でもちゃんとできるように、その習熟を図るようにということで、特にコメントをしておきました。

この検査は法律に基づいて、私ども県と柏崎市、刈羽村、それと、西山町は法律に基づいてということではなくて、東電との間で一緒に西山町さんも来て、県・市・村に準じて一緒に検査に加わったということであります。それが1点。

それから、もう一つ、これはつい先日、記事が小さかったので、ちょっとお気づきになったかどうかわかりませんが、この前の、当初、11月1日、2日で、国と合同で原子力防災訓練を行うという予定で、準備万端、整えていたわけですけども、何と1週間前の中越大震災でしたので、とてもできる状況ではないというので、その時点では、16年度中、中止または延期ということで発表したんですが、その後、県について言っても、いまだ災害対策本部が解散できる状況ではありませんし、また、地元、市、村も対応に追われています。また、国の方の状況もとても年度内にできる状況ではありませんので、発表として中止または延期という形で発表してしまいましたので、はっきりとここで正式に、国とともに今年度は中止ということで発表をさせていただきました。

ちなみに、そこには書いてありませんが、来年度、こういうような形で、毎年、国は合同の防災訓練をやっているわけで、私どもとしては、今回手を挙げたのは、今まで県が総合訓練と称して、よく皆さんが御存じのとおり、1年置きでああいう規模の訓練を、県、市、村が中心になってやっていたわけですが、やはり国と合同で防災訓練をやるということは、我々、県、市、村が中心でやるのではできない訓練がいろいろ組み込めるわけで、そのために、そういうことが大きな理由で、今回、16年度は手を挙げたわけですから、それがこの震災でできなくなって、私どもの考えとしては、来年度、やはりその考えは変わりませんので、やりたいというふうに考えております。

ただ、これは国の調整事項ですので、聞くところによると、3月、中央防災会議というのが開かれるようで、それが開かれれば、その場で全国から開催の希望を調整した後で、そこで正式に決まるだろうというふうに聞いております。

それから、説明は2点だけですが、そこに書いてありませんが、3点目。

この前の中越地震の本震で、連絡通報がスムーズにいかない部分があったわけですので、今、これで3回目になりますかね、東電、県、柏崎市、刈羽村、検査官事務所、西山町、

5者になりますかね。その5者で連絡通報のハード面の強化、一重だったものを二重にする、あるいは携帯電話も災害優先のものをふやす、それから、衛星携帯電話を導入するというような、通報手段の強化、複数化を進めているもう一方で、さっきの我々の立入検査じゃないですが、せっかくハード面を強化をしても、それを使う方が習熟をしていなければ全く話にならないわけですから、その5者で、今、何度か協議を持ちながら、運用面でそれを使いこなして、スムーズに確実にできるようにということで、順次話を進めているところであります。

前回以降の行政の動きをかいつまんで御報告をいたしました。

新野議長

一点、衛星電話が別のところに繋がったというのは、単純ミスなのでしょうけど、番号の単なるかけ間違いだったのか、どうなのでしょう。

谷中課長

電話連絡先が表になっているわけで、それを私が指示をした県の方にというのが、どうも別の番号を見たんだと思うんですよ。それで、大体、急ぐときに番号を見て打っているようでは、緊急の場合には用がなさないわけで、私たちが立ち入りの検査をしているその日のうちに短縮ボタンというんでしょうか、それで一発でできるように改善してもらいました。今度は、後は、それを操作する方々が、よくそのことを習熟していただければ、そういうことはきつくないのだろうというふうに思います。その日のうちに改善がなされました。

新野議長

それでは保安院さんのほうからお願い致します。

木野所長（保安検査官事務所）

遅れまして申しわけありません。座らせていただきます。

ちょっと幹事会でアルカリ骨材反応ということについて何も報告がなかったのでということがありましたので、ちょっと1枚紙で配らせていただきましたのが、経済産業省という判このついた紙ですね。アルカリ骨材反応ってお聞きになった方もいらっしゃると思いますが、要はコンクリートに不純物が入っているとコンクリートがぼろぼろになるというものです、簡単に言うと。これが内部告発があって、アルカリ骨材反応のデータを改ざんしたという業者が現れたために保安院がいろいろ調べていましたと。浜岡なんです。そのうち今度は福島第一でもそういう事実があったというような話が出たものですから、福島も焦って調査をしましたという話です。

一応書類等をいろいろ調べて、現状は問題がないということを確認しておるところでございますが、あと、実際のコンクリートから茶筒のようなものを抜いて試験をするというのは現在やっている最中で、半年後ぐらいに結果が出るそうです。

この紙は、そういう問題があったので、ほかの電力に対してもすべてこれで保安院が指示をしたということで、1から3のようなことを確認してくださいということで全電力に指示をした文書であります。要は書類確認をして、アルカリ骨材反応に対する健全性を確認しなさいということとか、試験をしなさいということの文書でございます。

アルカリ骨材反応のご説明は以上です。

では、とりあえず報告はこれ1件でございますが、あと、減肉もいろいろ行っていると

ということで、前回のこの定例会でお話があったところ、保安院は何も報告がないがというお話もあったので、うちとしても、他の事業所で起こった減肉については、柏崎についてどうだということを通宜事業者からヒアリングしておりまして、現在のところ、柏崎では基準をオーバーしたような減肉が確認されたという事実はないということを経済産業省に報告させていただいているということを口頭で御報告させていただきたいと思っております。

以上です。

新野議長

これは一般紙の1月に載っていた記事なんですが、柏崎の原子力発電所のことではなくても、一般紙に載るレベルの事があれば、データ上の詳しい報告でなくてもいいので、今程度のご報告がいただければと思います。

木野所長

後ほどそれもあわせてしゃべりたいと思っておりますが、こういう情報は極力出したいと思っております。

新野議長

では、東京電力さんお願いします。

長野室長（東京電力）

東京電力広報部の長野です。

お手元の資料で、前回以降の動きということでご説明をさせていただきます。

公表案件としては1件ございました。1月22日でございますが、5号機の原子炉建屋で人が出ております。これは、1月20日の午後4時半ごろでございますが、5号機の原子炉建屋の1階、場所は管理区域でございます。協力企業の方が台車で資材を運搬しておりまして、上りスロープのところまで台車を押していたところ、バランスを崩してしまいまして、その台車とともに転んでしまいまして、積んでいた荷物が崩れて顔に当たりまして、切り傷を負ったということでございます。

それから、その他でございますが、1月25日に、先ほど新潟県さんからご説明がございましたとおりでございますが、状況確認が行われております。

以上でございます。

新野議長

ここまでで質問といきたいところですが、次のところでまた同じ方がオブザーバーの総括ということで、ご発言をいただきますので、(2)に移らせていただきます。

木野所長

それでは、まず保安院というか、事務所として毎回ここに参加させていただいております。この2年弱、地域の会に出させていただいた感想というか、総括ということでお話しくださいということだったので、まず、私としては非常にこの会に出てよかったというか、皆様のご意見がいろいろ聞けて、いろいろお話もできてよかったと思っております。それが何か政策に反映できるとか、そこまではなかなか行かないわけですが、保安院も広報課をつくり、私も広報官ということで、いろいろやってきた中で、やはり何かやる時にこの地域の会が頭に浮かぶんですね。こういうことをやったら皆さんはどう感じるかなというのが、こう頭に思い浮かぶということからしても、私はここに参加した意義があったのではないかなということ、今、感じております。

それから、今後のお話ということでは、後程、委員皆様でご議論していただくということだと思っておりますが、私はこの会は続けたいと思っております。ただ、ちょっと余り専門的にならずに、なるべく住民の目線に立ったレベルの、説明する方もそういったレベルに合わせないといけないんですけれども、そういった努力をして運営していただくことというのがいいのかなというのと、毎月1回よりはもうちょっと少なくてもいいかなと思いますが、これもご議論をいただければと思います。

何かとりとめのない話ですけれども、以上でございます。

早川所長（柏崎刈羽地域担当官事務所）

引き続きまして、資源エネルギー庁柏崎刈羽地域担当官事務所をやっております早川と申します。

早速、この会に対して発言というか、2回目となるんですけれども、まず、印象的からすると、会議に対してめりはりをつけていただいた方がいいのかなということです。自由におしゃべりになることはこの会のモットーだと思っておりますけれども、ある程度この会議でご意見に対して集約していただいた上で東京電力なり、あるいは国側に対して、こういったことに対して説明を問うというのを、まず議事メモ的につくっていただいて、それに対して説明に伺うという形の方がいいのかなと。何か突然、自由にしゃべれる場所は、場所をとっていただいた上で、それである程度集約されたものをぶつけていただくというのがいいのかなと。そうすれば、外から見る方というか、地元いらっしゃる市民の方に、もうちょっと、こういう地域の会というのは、こういった意見を、私たちの言葉で集約していただいているものをぶつけていただいているのかなというのが見えるのかなと思っております。せっかくさまざまな立場の方がいらっしゃって、こういう会というのはなかなか他の地域ではないと思いますので、そういったふうに何か筋道というか、規則的にやっていただければいいのかなというのが私の印象です。

それから、あと、自由にしゃべるといのは、当然、説明というか、自分たちの背景とか、いろいろスタンスがあって、なかなかお時間がある中、時間が長いというのは、前回でもお話のあったように、やはりもう少しまとめて、要するに、こういったことですよとか、もうちょっとまとめたような形で出していかないと行かないのかなというのが個人的な意見でございます。

あと、もう1つ、1点、私が赴任したのは6月からなんですけれども、地域の会の会則を見させていただいて、何か会議の中に発電所情報共有会議というのが存在されているんですけれども、これは何か、一度、2年間この会議をされているんですけれども、何かそういった機会があったのかなと、ちょっとこの辺が見えていなかったものですから、こういった会則がありますので、もう一度見直す必要があるのかなということです。

余り長くなると時間をとりますので、これで私の言葉は終わらせていただきます。

谷中課長

新潟県です。私の方からは、地域の会、注文というよりは、その存在意義というようなことでお話ししたいと思います。

この地域の会の設立準備の段階から、私、ずっと、経過はよく聞いております。その経過を思い出すと、その間のさまざまな議論を経て、全国で例のない、さまざまな立場の方々が一堂に会して、事業者だとか、国、その自治体に対して確認を行ったり、提案を行

うと、こういうユニークな会が発足したということ、本当に感慨深いものがあります。2年前ですか、約2年前、発足をして、もう既に21回目の会議ということで、実に、その回数だけではなくて、その中身も、毎回毎回、つぶさに見させていただいておりますけれども、まさに本当に精力的に活動してきたということに大変深く敬意を表したいと思いません。全くそう思います。

その地域の会が発足するに至った直接の動機というのは、2年半前のいわゆる東電問題、それをめぐる議論の中で、こういうものをつくろうという気運が出てきたということではありますけれども、考えるに、それは直接的にはそうだけれども、その背景というのは、この原子力発電所誘致の表明以来、30数年たっているわけで、その間、地元で原子力そのものについて、あるいは地域振興について、いろいろな論点で、それをめぐる、時には非常に激しい議論、そういう経緯があったわけで、そういうものがまさに背景となってこの地にできてきたんじゃないかなというふうに思っております。全国に先駆けてこういうものができたということは、きっと私はそういうことがあるんじゃないかなと。そういう意味で、この地域の会というのは、柏崎刈羽地域、西山も含んで、その地域の会ということだけではなくて、全国にある原子力発電所、サイトがある各地域から見ても極めて注目に値する会だというふうに私は思っております。そういう取り組みなんじゃないかと。

県としては会の運営に対する支援というのはもちろんでありますけれども、間接的ではあるけれども、私どもにとっては地域の住民の方々の生の声に接する貴重な機会だと考えております。こういう場で、あるときには私どもにとっては非常に耳の痛い御指摘が多々あるわけですが、やはりこういう場で県の原子力安全行政に対する生の声が聞けるということは、やはり大変大事なことなんだというふうに思っております。

間もなく満2年を迎えるわけで、前回からこの会のあり方について皆さんの意見がさまざまな形で出ているのをこの前も読ませていただきました。もっとどういうふうにあるべきかということよりも、私としては、長い目で見て、委員同士でどういう会であるべきかということについてうんと議論をしていただきたいというふうに思っています。それだけの議論をしていくだけの価値が十二分にあるというふうに考えておりますので、あえてこういうことはどうというふうに意見は申し上げませんが、ぜひこの中でもあり方についての激しい議論をみっちりやっていただきたいというふうに思います。

少々長くなりましたが、以上であります。

名塚係長（柏崎市）

柏崎市の防災原安課名塚です。今日は課長が所用がございまして欠席しておりますので、代わってお話をさせていただきます。

前回、課長の方で地域の会に対してということで申し上げて、繰り返しになりますけれども、この地域の会、事業者に限らず、行政の方も、委員の皆さんからご意見をいただく会であることから、毎回、緊張を持って臨んでいるところであります。この会での意見は、市としてもそれなりの重みを持って受けとめておりまして、きちんとしっかりした対応をとらなければならないということで対応しております。例えば原子力防災の問題につきましては、30年も経つのに何をやっているんだという手厳しいご批判、ご意見もありまして、それにつきましては、原子力防災計画について、今後、実効を持たせるものにしていきたい、専門家の助言を得ながら、自分たちの能力を高めていきたい、力をつけていき

いというようなことを、前回、課長が述べております。

あと、市の方で広報センターと一緒に事務局ということでさせていただいておりますけれども、地域の会につきましては、お金は出しますけれども、口は出さないということで行っておりますけれども、なるべく委員の皆さんの自主的な運営にお任せしようということで心がけておりますけれども、もちろん全く丸投げをしてしまうわけではなくて、会の運営がスムーズにいくように、必要な点につきましては今後とも支援をさせていただきたいというふうに考えております。

西川市長の、当初、設立のときの挨拶で、本当に多難な船出で、誰も先行きがわからなくて、下手をすると空中分解をするかもしれないけれども、地域の会につきまして、長い目で見させていただきたいというふうにおっしゃっておられましたけれども、まさしくその通りだったんだというふうに、今までの2年間を見ておりまして、そういうふうに感じました。

以上です。

吉越副参事（刈羽村）

刈羽村の吉越と申します。よろしくお願いいいたします。

本日、課長、塚田の方が所用がございまして欠席しておりまして、私の方からお話をさせていただきたいと思っております。

塚田課長の方から、感想といたしますか、お話ということで少し預かってきたものがございしますので、読ませていただきたいと思います。

地域の会が設立されてから2年になろうとしている中、この間の活動に対して感想を述べさせていただきます。

まずもって、委員の皆様におきましては、2年間にわたり、会の活動運営に対しまして、多大なるご理解、ご協力に感謝申し上げます。

さて、地域の会の設立につきましてはご案内のとおりであります。平成14年8月末に発覚した東京電力の一連の不正問題に対しまして、地域住民の目線で問題の確認、再発防止策、信頼回復への提言等、本会の活動は意義があったと思っております。行政といたしましても、問題点の検討・改善に努めております。今後の活動につきましては、地域の会の目的に沿った活動をしていただき、原子力発電所の安全につきまして、地域住民の目線で事業者並びに行政に対しまして、監視、提言等を行っていただければと思っております。

ということで、課長の方から預かってきたものを読ませていただきました。

私も平成16年度からこういう担当になりまして、ほぼ全部の会に出させていただいております。それで、いろいろとお話も聞かせていただいております。感想といたしますのは、先ほど県の課長さんからのお話にもありましたように、やはりいろいろな立場の方が一堂に会していろいろな意見を出し合って話をするという機会を持つということが非常に大切なことだと思っております。ことしは特にいろいろな事故もありまして、いろいろな話も聞くことができましたけれども、やはりこういう場におりますと緊張もしますし、では自治体はどうなっているんだとか、そういう話をいただくこともあるのじゃないのかなとも思っています。いつも聞いております。そういう意味でも、非常にこういう会を持って話をしていくことは大事なことですし、これからも続けていっていただければと思っております。

以上です。

徳永課長（西山町）

西山町の徳永です。今日は大変ご苦労さまでございます。

では、私の方から総括というよりも感想というようなことで申し上げさせていただきます。

当西山町につきましては、立地ではなくて、周辺という立場の中で、しかし、周辺といえども、立地と同じような地域だというふうに考えております。その中で、立地の柏崎市並びに刈羽村さんの方から、この地域の会の組織の立ち上げに対して、西山もどうだという声を出していただきまして、本当にありがたいと、こんなふうに思っております。

当初、2名程度というような話でございましたけれども、やはり西山の地域も同じような環境でございますので、できれば4名ほどお願いしたいということで、それもあわせてご理解をいただきまして、今現在、4名の委員の皆さんから参加をしていただいております。

そういった中で、先ほども言いましたように、当西山町については、やはり発電所から10キロ圏内、ほとんど西山町がほとんど網羅されるような地域でございますので、このような地理的な西山町でございますので、町民は2年半ぐらい前の例の事件、いろいろ今までの事故等が、本当に町民は、はっきり言いまして、関心が高うございます。そういった中で、この地域の会が立ち上がってきたわけでございますけれども、県並びに柏崎市、刈羽村さんが言われました、同じようなことでございますが、この地域の会の存在感というのは大変意義あるものというふうに私も思っておりますし、今後、事業所ばかりではなくて、我々行政の方にもいろいろとご意見をいただければありがたいなというふうに考えております。

この地域の会が発足して2年程度経つわけでございますが、その前から準備会とかいろいろやってこられております。数を数えると二十四、五回ぐらいになるんでしょうか、その間、また運営委員会だとか、それから、広報委員会だとか、そういった専門委員会的な会合も数多く開催をされておるようでございます。そういったことに対して、本当に敬意を表したいと思っております。

先ほども言いましたように、この地域の会が今後も、この事業者ばかりでなくて、我々行政に対してもいろいろなご意見をいただいて、ご指導をいただければなと思っております。そういった中で、我々も緊張感を持って、いろいろな問題に対して対応してまいりたいというふうに考えているところでございます。

今後、この地域の会が、地元の町民といいますか、西山町にとっては町民でございますが、監視するという立場の中の意義ある組織だというふうに考えておりますので、今後、ますますこの会が発展し、また、内容ある活動をしていただければありがたいなというふうに考えていますところでございます。

甚だ簡単ではございますけれども、私の個人的な感想を申し上げて終わりにしたいと思います。大変ありがとうございました。

長野室長（東京電力）

東京電力の長野です。これまで何人の方からもお話がございましたが、この会は私どもの不祥事を契機として発足したわけでございますが、これまでの各委員の皆様、それから、

関係行政並びに事務局の皆様のご尽力に対して深く敬意を表する次第です。

それから、同じく何人かの方からお話でしたが、この会は私どもといたしましても情報公開の場として臨ませていただいているわけですが、地域の皆様の生の声を聞ける大切な場というふうに考えております。

会則の6条にもうたわれておりますが、私どもは積極的に情報を公開し、誠実に説明責任を果たしてまいりたいというふうに考えております。また、皆さんから、御意見、御提言を頂戴するわけですが、謙虚に受けとめ、発電所のありのままの実態、事実等をお示ししてご説明する、あるいは発電所をご覧いただくというようなことで、これからも透明性を持った発電所となるよう一層努力をしてみたいと考えております。

各委員の皆様におかれましては、今後とも発電所の運営全般について、御指摘、御意見等をいただきますよう、よろしくお願いをしたいと思います。私どももできるだけわかりやすい明解な説明をさせていただきよう、これからも一層努力をしてみたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

新野議長

今、オブザーバーの方からいろいろな貴重な御意見をたくさんいただきましたけれども、前回に引き続き、8時半ごろまで、1時間ちょっと、この委員同士の意見交換ということで、今のオブザーバーの方の御意見もまた、やりとりもさせていただいて構わないと思うんですが、この地域の会のあり方について、引き続き意見交換に移らせていただきたいと思っております。

前は問いかけたときに、それぞれ委員の個人の御意見をいろいろ語っていただいたり、文書にさせていただいたんですけど、今日、オブザーバーとしての方が感想を述べられていますので、それをまた取り込んでいただいて、また新たに御意見をいただければなと思います。時間が1時間ちょっとですので、できれば1人でも多くの方の御意見をいただきたいので、手短かに数多くの意見を発信していただければと思いますので、よろしくお願いをいたします。

今日はちょっと若干お天気のせいかな目なので、本当は挙手でいきたいんですけども、どちらかの角からずっと、一通り、簡単に御意見をいただいてよろしいでしょうか。そして、多分、若干残るでしょうから、そこで補足の御意見をいただきたいと思っております。

川口委員

前日も言ったんですけども、24人というそのものが、ちょっと、みんなから意見をもらうにしてもちょっと多過ぎたのではないかなという気がします。1人3分話しても、24人だと、もうそれで1時間半が終わっちゃいますんで。そうしたら感想を言って終わりという感じになるということと、あと、実際問題、賛成、反対、みんな入れたということで、大体半々にしたよというような感じの集まりであったとは思いますが、ただ、やって思うのは、多分、私は、原子力発電に対して、賛成の立場で出ていると思いたすけれども、実際問題、賛成の立場であったとしても、ああいった不祥事とか、何か起こったことに対しては言いたいことは言うんだということであれば、そういった比率が果たしていいのかどうかというのはやっぱりちょっと疑問を感じたということと、やっぱりもうちょっと会全体を考えて発言ということを考えて、時間が延びてきたなと思ったら、やっぱり自重してもらうとかということをしていかなければ会の運営自体が難しいのかなと

思いました。そのぐらいです。

渡辺（五）委員

メモというんでしょうか、報告してありますので、なんですが、基本的には、今のいろいろなコメントがありましたけれども、存在価値でしょうかね、存在意義は十分にある会だというふうに私も思っております。そういった意味では、今後もやはり必要なのではないかなと。この活動が活発になるのがいいのかどうかというのはちょっと面倒なところもあるかもしれませんが、少なくとも地域の会としては存続していく、こういうものが大事だろうというふうに思います。

あと、回数とか、人数は、私はあまり多いとか少ないとかは感じないで、やはりその時々が必要に応じてこういう会議は持たれるものではないかなというふうに思っておりますし、人数も、民主的にいえば多いに越したことはないんでしょうけれど、多くなればまた発言をする機会も少ないとか、いろいろありますが、今のところは、私は人数等についても、そう、多いとか、少ないとか、あまり今のところは特段の感じというものは持っていないと思います。いろいろな御意見、多分、リップサービスもないというふうに、素直に受けとめて、今後の会、発展というんですか、存続されていけばいいなというふうに思っております。

以上です。

武本委員

始まってからのことを思い出して、会が多過ぎるという国の意見も踏まえて、早く開催を減らせるようなことにならないと困るなというふうに率直に思いましたね。それこそ、何がということをあえて言いませんが、これで終わるかと思っても次々と新しい問題が出てきて、休む間がなかった、その結果が回数の多さになった。ともかくちゃんとしていればこんなにやる必要はなかったんだろうと。にもかかわらず、国が多過ぎるということを使うというのは何を考えているんだろうという感じが率直な私の意見です。本当に少なくしてもらいたい。

しかし、今後の見通しで、終わったと思えば、それこそ新しいことが出てくるということは本当に困ります。そういうことの繰り返しで、恐らく、信頼回復というよりも、何となく距離がだんだん広がって、それがかたまってきたんじゃないかという変な心配をしているんですね。

ですから、ぜひ開催を減らすような発電所になってもらいたい、行政というか、国を含めて、そういうことになってもらいたいというふうに思います。しかし、現状では減らせないだろうし、何かあったときには即刻対応するような体制は残しておかなきゃならんのかなという感じがします。

以上です。

中沢委員

発電所の安全性を確保する地域の会という、そういう目的に照らして見れば、会の意義というのは十分にあったというふうに、一定の成果は出ているように思います。ただ、やはり、先ほど国の方、早川さんですか、言われたように、会として集約したようなものを、東電なり国などにぶつけるというか、そういったまとめた形で出すというような、そういったことがほとんどできなかったというようなことがちょっと反省点としては上げられる

んじゃないかなと思います。提言というような、会則にもあるんですが、そういったものがなかなかできなかったというようなことがちょっと反省されるんじゃないかなと思います。

それと、会の進め方なんですが、かなり時間がないというような中で、時間に追い立てられて十分な議論ができないまま会が終わってしまうというようなことで、何か物足りなさというか、そういうものがいつも残るといふようなふうに思いました。やはりそういうことから、十分な議論をするといふようなことが必要なので、土曜、日曜なんかの、皆さん、時間的に余裕のある日を会議に当ててみたらどうかというふうに私は提案はしたんですが、そこら辺も考えてみたらどうかというふうに思います。

それから、先ほど国の方の早川さんの方からの話の中で、第9条にあるんですが、定例会のうち年4回は事業者なども出席する会議、発電所情報共有会議としますといふような会議の、9条にあるんですけれども、これについてはどうだったのかなと。この発電所情報共有会議といふのが今までやられたのかどうかというふうに、ちょっと今、思っています。

以上です。

本間委員

前回出なかったのですみませんでしたけれども、まとめ、感想ということでいいですか。

2年やってきて、非常に細かい点では若干成果もあったかなと思わないこともないんですけれども、大きなところで考えると、時間、回数が多いといふような話もありましたけれども、委員の中だけでもなかなか詰めた議論にするには全然時間が私は少ないと思います。それをやった方がいいといふことではないんですけれども、やると膨大な時間がかかって大変ですけれども、今の時間の中で十分に委員同士で議論を深めて、この問題はどうかどうなんだと言ってやっていくのは非常に大変だといふか、時間が足りないという感じがします。

そうやって委員の中で例えばある程度方向性が出たとして、物を申すのは、世界でも最も強力な日本の官僚機構と、数ある日本企業の中でも最も官僚的な電力会社が相手ですから、なかなか私らの思いが伝わらないといふか、伝わっているんでしょうけれども、それに素直に答えるようなことはしてくれないわけで、その辺が限界といえれば限界ですけれども、それをすんなりと私らが日ごろ思っていることをここで話をして、東電側に言ったときに、それにストレートに答えが返ってくるような会になれば理想的だと私は思っているんですけれども、なかなか難しいかなという感じを持っています。

宮崎委員

この会の回数とか委員の数について申し上げますが、会の数が多いといふふうに私が思っていないのは、ここの方が全員、毎回、お話がありまして、時間が足りないといふことになれば大いに減らしてもいいかと思えますけれども、今のところ問題提起する方がそれほどいない中で人数を減らすといふのはどうかというふうに思っています。できるだけ開かれた会であるといふことになれば大勢参加した方がいいと思えますので、こういう会でいいと思います。

ただ、再登録といえますか、内藤さん、もうお辞めになったんですけれども、ああいうふうに自分たちの会は、私はこの会に参加を続けますとか、続けないとか、そういう再登

録をしながら、できるだけそういう意見を語れる方を集めていただきたいなというふうには思っています。

要望ということになりますと、さっき川口さんが、この前ですかね、反対派の人は2人ぐらいと。あとは賛成派もいるんだから、そういうバランスを考えるとされたんですけども、そういうようなことだとちょっと困るので、むしろ原発を推薦する方だって心配だということでこの会を立ち上げたわけですから、この委員を引き受けている以上は、推進しようという方だって心配のことはいっぱいあるわけですから、大いに出していただく。そういう形にするのが大事だというふうに私は思っていますので、意見はいっぱい言う人は少ない方がいいと、そういうことはぜひ言わないようお願いしたい。意地悪は言っていないですから。そういう捉え方をしないで、大いに推進という方からも話が出てこそ、私はむしろ、大いにそういう心配なことが出れば、私みたいに原発について批判的な者だって、そういう心配は、どなたが行ったって心配は心配だと思いますので、話はまとまっていくと思う。今はちょっとまだ意見が少な過ぎるんじゃないかなという感じがしていますので。

もう一つ、このテーマの問題なんですが、事故、トラブルがなくなると、この会の目的がなくなったというふうになっちゃうんですけども、私の心配は、むしろこの原発が動いてからもう何年、20年方ですかね、30年になろうとしているときに、だんだん老朽化という問題が起こってくるんですよ。当然老朽化ということは、今、安全であっても、いつか何か起こるということを意味しているわけですから。事前の予備知識といいますか、そういうものをたくさん蓄える時期にすることが、それこそこの会の大事なことで、いざ何か起きたときには基本があるからまた物が言えるということになると思いますので、大いに、心配になるようなテーマ、私、考えているのは、老朽化の問題とか、使用済み核燃料がどうなっていくのかとか、そういう、長く運転されればされるほどまた心配なことがありますので、そういう先を見越したといいますか、基礎的なことを大いに勉強していきたいなと思っています。

ちょっとこれは余談になるんですけども、ここに来るといつもあそこにこういうパンフレットが置いてありますよね。これは保安院さんが用意してくださったものなんですけれども、今、一つ、上げますと、主蒸気隔離弁の誤閉鎖の解析とか、これが閉鎖したらどういう事故が起こるかということをシミュレーションしているわけですね。こういうのを私らは解説してもらいますと、ああ、原発というのはこんな仕組みになっていて、ここに危険性があるのかというようなことがわかってくるので、何かあったときには、あれに基づいてこんな事故が起こったり、こういう対応をされているのかということがわかるので、こんなことを解説していただくだけでもすごく勉強になるなと私は思っています。

もう一つ、余談なんですが、この前、西田さんにお話を聞いたら、移動式の、この前、中性子をはかる機械がありましたですよ。それについては閉めるべきところを閉めないで、いろいろな責任問題について話を聞いたんですけども、私はむしろ格納容器というのは中が70気圧ですかね、すごい気圧になっているところにこうやっているんだから、相当押し込むのに力がかかるんでしょうねと言ったら、そんなことはありません、何も圧力はかかっていませんって言うので、例えばそういうこと一つだって、私は知識としてはわからないものだから、余計な危険性を感じているんですよ。ところが、本当に操作をさ

れている方は、何をあなた方はそんなに心配することはないよと言うんですけれども、そういう仕組みを知れば私は安心することもありますし、逆に、私は仕組みがわかることによって、本当に危険と隣り合わせになっていることもまたわかってくるので、そういう仕組みなんかもちっと話をして、私はむしろ細かく説明してもらった方がいいなど。皆さん、専門的で、市民的じゃないと言われるかもしれませんが、詳しく知ればまた余計理解が進むということも感じているんです。

渡辺（洋）委員

私は、荒浜町内会を代表して出てきたんですが、原発に事故があると、この会で、皆さんがいろいろ考えていたりするんだなということをしみじみ感じてまいりました。大変そういう意味では意義深い会だったなということをしみじみ感じております。人数が多いとか、時間が長いとか、どうこうを超えて、私はもっぱら皆さんの意見を聞くような立場でここに来ておりました。特段、原発についての知識があるわけではありませんので、皆さんから提言された御意見に、なるほどな、そう言われればそうだなということ、感激ばかりしておりまして、意見なんかはほとんど持っていないままここへ出てきておりましたことを恥ずかしながら申し上げたいと、こう思っております。

この会も、それぞれの意見、いろいろな立場で御意見を出されている、これは大変意義があるんじゃないかと。メンバーが多いとか少ないとかでなくて、非常に適当なメンバーではなかったらうかなというような気がしてなりません。反対の人は反対なりに、賛成の人は賛成なりの意見を出していたようにも思っております。とりとめもない意見を申しましたが、以上です。

牧委員

先ほど発足当時のことを思い返しておるといような発言がありましたけれども、私も準備段階が終わってからの参加でございますけれども、準備会の会議録は非常に強く印象に残っています。とてもすごい内容の議論があり、エキサイトした場面も、生き生きと、今、思い出すことができるんですけれども、そうやって透明性を確保していこうということで一致した、この一致点をつくり上げたということはとても貴重だったと私は思っております。そして、その一致点を、この2年間、とにかく崩さずに、壊さずに守り通してきた、私どもの努力、皆さんの努力も、私は大変貴重なものだったと思うんですよ。

去年の秋でしたか、福井で似たような事件が起きましたですね。あれは福井で、たしか大きな問題になったと思うんですが、あのとき、福井にはこういう組織がないんですもんね。市民の側から言うこともできないし、原発側からも説明をきちんとやる、そういう機関が確か無かったと思うんですよ。そういうことから比べてみましても、この地域の会があるということは、私はどちらにとっても非常にいいことだったんじゃないかと思うんです。私どもにとってもよかったし、原発側にとっても、ここを通して説明が行われるという利点が私はあったんだろうと思うんです。こういう利点をこれからも一層大事にしていきたいと思しますので、構成としてはこのぐらいの規模、あるいはむしろこれより大きくなっていいかなというぐらいに私はこの会の存在を考えています。

それで、一言アンケートで余計なことを書きましたけれども、「役員改選に当たっては」なんていうことを書きましたが、あれはちょっと余計なおせっかいだったかなと思うんですが、私のそういう心情を表したものとしてお受け取りをいただけたらと思っております。

ます。

とにかく貴重ないいものがつくられた。しかし、やってきたことは重たかったですよね。本当に、私、重たいと思いました。それまでにだいぶ原発のことは勉強したつもりでいたんですけれども、本で読んだものなんていうのは全然役に立ちませんで、全く新しいものがどんどん出てきて、この間、文書を整理しましたら、随分の高さに積み上げられるほどの文書をこの間いただきました。そういうものがまだまだ全然私にとっては未消化のまま残されておりまして、ここで発表になったものなどを、ここで議論する場があってほしかったなと思うんです。お互いの理解を深めていかれるようなものがあってほしかったなというふうに、今、思っています。

今日、東京電力さんの発表がありましたけれども、台車が転倒するような、そんなスロープがあつたかと思ったり、また、転倒するような物ということ、どんな物を運んでいたんだろうかなというようなことも思いますし、こういうことが起こると言うことを私たちは今の時点でどう受け止めたらいいいのか、そんなことも皆さんの御意見を聞かせていただけたらということも思って、先ほどの発表にも聞きたいことがいっぱいあるんです。あるんですけれども、あまりにささいなことにわたりますので、時間が貴重になりますので申しませんけれども、そんな思いを持っております。

佐藤委員

今ほど牧さんがおっしゃった基本的な部分ではかなり共感するところがいっぱいあったんですけれども、この間、賛成、反対、あるいは中間的な方々もひっくるめて、何とかこの会を立ち上げるということまで行ったわけで、それは今ほど話がありましたように、大変な努力の中でそれが実現できたわけです。

ところが、いろいろな議論をしているうちに、やっぱり、それぞれの帰属意識というんですか、先祖返りというんですか、そういうことが出てきたりして、余り耳障りのいいことじゃないことは聞きたくないというような意見も一部ではちらほら出てきているように思います。

ただ、いずれにしても、当初の出発というものは、ここで議論されたことは市民に返して、公開して、やっぱり市民の皆さんからも見ていただいて、行政と、あるいは、行政が立ち上げたと言いながらも、一般市民の方々の議論を通じて、もっともっと透明性を確保していくんだということが当初の目的だったと思うんですけれども、2年間やって、ある意味では、こういうものを、ちょっと乱暴な言い方かもしれないけれども、ぶち壊すというか、脱皮をするというか、そういうことが一つには必要なのかなという感じもします。ただ、じゃあ、お前、何かいいアイデアがあるのかとか、いい発想があるのかと言われると、今、そういうものは持ち合わせていませんが、やはり2年間の一定の我々としての総括をすることが必要だろうというふうに思います。

ただ、もう一つは、行政は行政としてどう考えておられるのかというのは、そちらの方からもきちんと出していただくことは必要なんじゃないかなというふうに思っています。総括というか、今までの中では、それなりの役割は果たしてきたのではないかなというふうに私自身は思っていますけれども、まあ、そうは言っても、いろいろな考え方の人たちが集まって一定の議論をしようということですから、それなりの限界はあるだろうというふうには最初から思われていたわけですし、そういう中では、意見というか、提言みたいな

ものを2回ぐらい出したというようなことも、言ってみればそれなりにみんなで努力しようやと言ってきたことになるのかもしれないなというふうに思っています。そんなに、甘いとか、辛いとか、しょっぱいとかというような結論をきちんとしてすぐに出るような代物ではないと思いますけれども、やはり地道な、みんなしてそういうものをちゃんとやっ払いこうという意識そのものがやっぱり大事なんじゃないかなというふうに思っています。

田辺委員

遅刻の常習犯の田辺でございます。私にしてみれば6時半に出てくるのは非常に厳しいので、いつも遅れてしまって申しわけありません。

私は、先ほど中沢さんが言われたように、国の早川さんがおっしゃったようになるのが一番ベターだろうなと思いますけれども、それにつきましては、隣の武本さんが言われたように、モグラたたきのように、次から次へといろいろな問題が出てきて、それをたたいている間に現在に至ってしまったんじゃないか。早川さんが言うようにきちっとしてぶつけるのが一番会としては、それが正論だと思うんですけども、そこまで行かなかったんじゃないかなと思います。これからはそういうことができるように、逆に言えば、この会がなくなるような、我々なんか要らないよというぐらいにきちっと東電さんがやってもらい、国がそれをきちっと監督していただければ、我々はこんなひまざいしてここに来なくて済むんじゃないかなと。私の意見はそれが一番ですね。忙しいので、できるだけ呼んでほしくないというのが現状でございます。

伊比委員

いろいろ、皆さん、立派な御意見が出ておりますけれども、24名の委員の中では一番レベルの低い委員じゃないかというふうに、私自身、強く反省したり、私がこの委員の席を置かせてもらっていいのかどうかということを常に疑問に思っているわけですが、そもそも、この会ができた、このいきさつは、皆さん、十分御承知のことだと思いますが、私は常に参加させていただいて、反対だとか推進だとか、そういう考えは、私自身はこの会に臨むときには一切持たないで、常に皆さんのいろいろな御意見をお聞かせいただいて、勉強させていただいているというのが私の実感でございます。

いずれにいたしましても、この2年間やってきまして、非常に委員の皆さん同士でも、特に私なんてレベルの低い者は、皆さんが私どものようなレベルの低い、目線を下げて、やっぱりいろいろ気を使っているというか、この会を何とか盛り上げていきたいという気持ちがあるような発言が非常に多いというふうに理解しておりました。そういう点では、日々、参加させていただくたびに勉強の機会があつてありがたかったというふうに思っております。

また、事業者あるいは国、県、市町村からも、それぞれ、その時点その時点での、本当に情報公開といいましょうか、そういうものが非常に誠意を持って対応されているというふうに私自身は思っておりますし、三十数年たったわけですけども、この後、原子力発電所がある限り、やはりそういう情報公開なりというものは誠意を持ってやっていただくということ、この会があつて、そこで発表していただくということは、また、国や市町村、あるいは事業者にとっても、いい機会だと思うんですね。新聞、マスコミ等に発表するだけじゃなくて、やはり地域の会に発表することによって、情報として地域住民に、これはすぐ広がるなんていうことはないんでしょけれども、じわりじわりと市民レベルまでやっ

ばり浸透していくんじゃないかなというふうに思っております。

委員会の人数ですけれども、やはりこの程度の規模が一番いいんじゃないかなというふうに思っておりますし、できれば会の回数ですが、2月に1回ぐらいに減ってくれば非常にいいんですけれども、今のところは、やはりいろいろ情報を開示してもらっているようなことで、厳しいんですけれども、1カ月に1回ぐらいずつあってもいいかなというふうに思っております。何しろ出席させてもらうことが常にいい勉強をさせてもらう機会というふうにとらえながら参加させていただいておりますし、ますます地域の会が発展する、発展って言うちょっと語弊があるんですが、活発な意見交換の場であってほしいなというふうに思っております。

以上でございます。

高橋委員

伊比さんと同じ、西山町から代表の一人として出させてもらってきました。

この会に参加させてもらうときは、おれはとにかく中立なんだと、中立という立場で参加させてもらうと。原子力発電所の必要性もわかるし、何ていいますか、例えば放射性廃棄物ですか、そこら辺の、まだ処理の方法が解決されていないとか、そういう両方の面が素人なりに、だから私は中立でと、そういうことで今まで参加させてもらってきました。

準備会からこの本会議の21回目までなんですが、私自身、自分でこの地域の会のあり方について、反省といいますか、省みまして、自己評価といいますか、非常に私個人としても勉強になったということ意義があったと思うんですが、それよりも、この会を通じて一般の市町村民に原子力発電所を少しでも原子力発電所に対する関心を高めてもらえたのではないかなと、そういうのがありますし、また、県あるいは東電、それから、保安院の方にも、本当にレベルの低い私のような者でも、率直に意見を聞いてもらったと、そういうことではよかったのではないかなと、そう思っております。

それから、東京電力さんのさっきの総括の中で、ちょっと欲しかったなということがありますが、この地域の会が発足してから、発足以前の東京電力の、その社員の方々、あるいは下請け、孫請け、そういう方々の緊張感といいますか、そこら辺が変化があったのかなかったのかなと、そこら辺のところをひとつ聞かせてもらえればありがたかったなという感じがしました。

それから、この地域の会にオブザーバーとして参加して下さっている皆さん方をお願いしたいんですが、できるだけ、私、自分で、片仮名語というのがなかなか理解できないもので、できるだけ片仮名語だけは使わないような答弁とか、そういう説明とかをやってもらいたいなと、そう感じました。

それから、簡単に法律に基づいて、その範囲内ですという考えでなく、法律を守ってもらうのは当然なんですが、さらに住民に安心を与えられるようなというようなニュアンスの答弁がもっとあってよかったのではないかなと、これは東電さんだけではなく、県あるいは保安院とか、皆さんに感じたことです。

それから、地域の会としましては、私、発電所がある限りとか、そういうことを言いますけれども、廃炉になっても、やっぱりこれは、ただ砂を埋めればもう絶対に安全なんだということではないと思いますので、これは永劫に続くようなものではないかなと、続けなければならないんじゃないかなと、そう思っております。

それから、最後に国に対してなんですが、防災訓練というのは、簡単に中止にしていものなのかどうかと。非常にこれは、防災訓練というのは重要なことではないかなと思って、先ほど中止というふうに決まったという話を聞かせてもらいまして感じました。

以上です。

渡辺（丈）委員

この地域の会の会則をつくる段階、準備委員会、多分4回目ぐらいでようやくこの会則ができ上がったと認識しています。スケジュールでいくと2回ぐらいででき上がる予定だったと思うんですが。いろいろ、そんなことで、私は、今現在、この会則を変える必要は全くない。つまり24名。それから、目的も、当然、今の段階でいじる必要はない。まだ我々がそこまで、いじられるところまで行ってないと、こういうふうな認識を持っております。

また、当初の段階から、皆さん、いろいろな感想を述べておりますけれども、私もしょっぱなのころは非常にきつい言葉といたしますか、失礼な言葉を使いながらやらせていただきました。特に事業者は何をやっていたんだと、また、国、保安院は何をやっていたんだと、また、行政も何をやっていたんだと、こういうふうな、エキサイトしたような言動をしまいいりました。

しかしながら、その後この会が発足して、次第に事業者は事業者の信頼回復に向けた方向を示したり、また保安院は、その監視、そういう機能を改めて提案したり、あるいは、今現実にこうしていると、こういうふうなことでありますし、また、県、市も、自ら自分たちで現場に入るとか、そういうチェックをきちっとされておりますので、これは次第に必ず良くなっていくだろうと私は思っています。

前所長が、ISO9001番は、今年の8月にとる、このようにあるところで言われましたので、私もそれに期待しておりますが、今現在はまだまだ、そういう整備が間に合わないというか、あるいはわかりやすく、誰もが守れるようなことになっていないところに心配事がありまして、盛んにその辺が定期検査で出てきたり、あるいは、ここ最近にもありますけれども、通報の手段にしても同じことですけれども、訓練がまだ行き届かないとか、こんなことがあろうかと思えます。いずれにしても東京電力さんは、8月に向けて約束したことですから、これ、認証をとれるレベルに必ず行くんだらうと思えます。そうすると、決めたことは必ず守らなければならないし、自分たちが決めたことは守らなければいけないし、それが履行されていなければ必ず東京電力さんの信頼というのがまた落ちるわけで、認証も外されるわけですから、この辺は私は期待しておりますし、それまでは、今、現状、我々が、そのような認証をとったとかというふうなところまで行くまでは、今の毎月開催ぐらいが適当じゃないかと。あるいは、そういう問題が、その現象として、事象として出てこないのであれば、これは回数も減らしても構わないだろうし、また、会則もいじっていいんだらうと、こういうふう考えています。

以上です。

今井委員

では、2年間の総括ということで、私が感じたことを申し上げますが。

まずもって、大変欠席が多くて申しわけないと、こう思っております。私にしますと、この会は決して優先順位一番でありませんで、どうしても他の会の方を優先せざるを得

ないという場面がかなりあります。特に水曜日ということで決めさせていただいておりますので、私は水曜日はほとんど都合がつかいせんので、そんなことで申しわけないなと、こう思っておりますが。極力努力をして出たいと、こう思っております。

2年間の中でいろいろなことがあり過ぎたのかなと。その度に、そのことの対応と申しますか、会の使命みたいなものを果たすべく、そのためのことに終始をした2年間であったのかなと、こんな思いもあります。ただ、私も非常にそれまでは素人だったわけですので、いろいろな場面でいろいろなことを知ることもできました。そのことを私どもが逆に今度市民と申しますか、住民の皆さんに、ここはこうなんだよなんていう話もできるように多少はなりました。そういう意味では、私も一歩、ちょっと大人になったかなと、こんなことを思いながら、またそれなりの会の意義があったのかなと、こう思っておりますが。

ただ、この2年間の中で特に感じたのは、安全性の問題とか、行政とか、事業者とか、こういう関係というものがほとんど今まで私ども住民の目線ではわからないところで動いていたように、こう思っておりますが、それぞれの立場で、活動と申しますか、安全性のことについては特に活動をいただいているわけですけれども、まだまだ距離が近くなったなという思いはしておりません。そういう意味での、私どもが市民の目線で物を考えると、市民に情報を提供するというところもあるんでしょうけれども、私は、立場が変わった立場の中で、行政、エネルギー庁さんもそうかもわかりませんし、保安院もそうかもわかりませんが、もっともっと、私ども以上にやっぱり、私どもを飛び越えた上での市民との繋がりと申しますか、関係を深める努力をしてもらいたいなというのがずっと感じております。

それから、将来のことについてということですが、できれば6回ぐらいにさせていただければなと、こんな思いもしておりますし、どなたかが申し上げたようですが、また事あった場合と申しますか、必要があった場合にはすぐにでもはせ参じて、ひとつまたそのことについて議論のできる柔軟性も必要なのかなと、こんなふうなことを思っております。

いずれにしても、広報誌がかなりの人に読まれているとは聞きますけれども、決してすべての人ではないというふうに、こう理解しておりますので、そうすると、私どもの会というものは何なのかと、ちょっと疑問に思うこともございますので、来年度からまた新たな出発をするわけですから、その辺を、何がどうなのかということをはきちょうとやっぱり検証しながら、少しずつ変わっていくべきだろうなと、こんなふうに思っております。

以上です。

新野議長

一周して、今、ぱっと人数を確認してみたら、今日は15名、私を入れて15名なんです。一通り、ちょっと一言と言ってこういうふうにお時間をいただくと、約1時間強ぐらいになるのかな、1時間ぐらいになりますよね。それで、25名で100%の出席率というのはちょっと難しいので、8割、でも他の会がどうかわかりませんが、非常に高い出席率かと思えます。8割はキープしているんじゃないかと思うので、そうすると20名前後でいつも、本来、今日は極端に少ないわけですね。10名が、今現在、席がないということなので、これはちょっとまた参考にさせていただければなと思えます。

私の一言の感想とすれば、品田議長がされていたときには、私たちの総意で彼にお願い

していたわけですが、御本人のお立場というのが、行政マン、しかもトップレベルの行政マンだったわけですね。さすがのリードをされるんだなというのと、あまりにもすごい事ばかりが議題に上って、ああ、すごい会なんだなというのと、エネルギーだなというのが感じるままに1年が終わってしまって、本来の委員に任せるという形になったときに、やっぱり民間というか、普通の市民が議長をするのは非常に難しいと思っていながらお受けしてしまったわけですが。

それで、要するに平時になってどういうこの会の運営をすべきかというのが去年の春のスタートだったんですが、去年、1年、この16年度が平時だったかというのが、どうしたことだったんだろうかと、決して本来の平時ではなかったんだと思うんです。またもやいろいろなことが起きまして、天災、自然災害が非常に多かったですけど、それに関連してやはり原子力発電所というのはやっぱり、県内の方にお会いしても、県外の方にお会いしても、柏崎ですと言った途端に、私がどうこうということなしに、普通の方が、ああ、あの原子力発電所があるんですね、大変ですね、御心配ですねというのが、自然に会話の中に入ってくるぐらい、柏崎と原子力発電所というのは、やはり全国レベルでも強い印象なんだなというのを改めて感じた1年でもあったんですけど。

この会は、本来は、どなたかもずっと言われていましたけれど、他にない会だというふうに最初から聞いてもいたし、自分たちもそうだろうと思っていますので、今までの既存の会の進め方を別にしないんでもいいんじゃないかというような頭があったものですから、随分時間を逸脱して大分言いたい放題言っていたりしたことが何回もありますけれど、だけど、何かとりとめのないような会であったようにも思うんですが、そうじゃなくて、やっぱり、私は長い目で見るときにしかない会だろうなと思うんです。1、2年じゃ結論の出るような会じゃ、最初からなかったはずなので、あまり結論を急がずに、もう少し時間をかけてというふうに個人的には思っています。

こんなところが、1年、2年の感想なんです。

もう20分ぐらい時間があるので、先ほどの高橋さんが東電さんにまた質問された、回答が多分いただける部分があるかと思うんですが、そんなことから始めさせていただいて、あとは、宮崎さんと川口さんが、多少の意思の、これは多分、細かいことというよりもそういうことが大事だと思いますので、手短に、またちょっと補足の意見で調整させていただいて、その後また御意見があったら意見を出していただければなと思っています。

高橋さんの質問で。

高橋委員

先ほど言いましたように、東電さんにお伺いしたいんですが、地域の会が発足してから、東京電力の社員、あるいは下請け、孫請けの社員に、仕事に対する緊張感といいますか、そこら辺の変化があったのかどうか、そういうことを一つお聞きしたい。

それから、国に対して、防災訓練が中止ということになったんですが、簡単に中止していいものなのかどうか、私、防災訓練というのは非常に大事なことでないかと思うんです。そこら辺の中止した理由といいますか、聞かせてもらえればありがたいなと、そう思っております。

以上です。

新野議長

では、東京電力さんの方から。

長野室長

社員、構内企業、協力企業の方の意識改革はどうであったかということでございますが、大変、私どもの、二度とこういった不祥事を起こさないという再生活動において非常に重要なポイントだと思っております、私ども、社内的には「企業倫理の重視」という言葉を使っておりますが、その徹底を図っているところでございます。「企業風土改革」という言葉も使っておりますが、そういったことの取り組みに力を入れております。具体的に申し上げれば、不祥事後、発電所の行動基準というのを作りまして、それを実践しております。

それから、やはり協力企業の皆さんとのコミュニケーションの活性化ということで、この辺も力を入れてやっているところではございます。あとは、社員教育ということで、企業倫理教育ですとか、品質保証教育等々、そういった教育活動も力を入れてやっているところではございます。これらの活動を通じて、きちっと決めたことは守ろうということで意識改革を行っております、徐々にではあります、成果は出ているというふうに考えております。

以上です。

新野議長

よろしいですか。あと、防災訓練は、今年度が中止になっているわけですね。お願いします。

木野所長

それでは、防災訓練の中止というのを2月1日に発表されたわけですがけれども、簡単にかどうかは別にしまして、中越地震の発生後、いろいろ様子を見て、これは当然自治体さんとも調整させていただいて結果、今年度はやはり無理だということで、今年度は中止とさせていただきます。

私個人の思いとしては、これはNISA通信にも書かせていただいたんですけど、やはり自分としても防災訓練はやりたかったけれども、いろいろな事情があるということで、今後はさまざまな機会でもたまたま訓練で、その訓練の結果、抽出された問題点というのを改善していきたいという気持ちは当然持っております。

新潟日報さんの記事にもあります通り、来年度は新潟県を最優先に考えているところですが、ちょっと3月までは正式にどうなるか決定はされないんですが、そこもまたいずれ報告ができるかと思っておりますので、ちょっとしばらくお待ちいただきたいということでございます。

新野議長

それでよろしいですか。

今年度というのは3月31日までなので、やっぱり無理でしょうね。ですけど、その3月の決定のときには、こういう意見を踏まえた上で、どういうふうになるのかわかりませんが、住民というか、私たちは、できれば、私たちって、皆さん、どうだったでしょうね。他の委員の方はどうでしょうか。防災訓練は、もし来年度だったら、やっぱり強くお願いしていただきたいのか、どういうふうに思われます。

中沢委員

今年できなかったですからね。地震がありまして、本当に訓練がされていればかなり生きたんじゃないかなと、うまくいったのではないかと。そういうことで、ぜひ、来年度はやってほしいと思っています。

高橋委員

それと同時に、今回、大きな地震があったということで、こういう地震のときの誘導はどうしたらいいとか、そういう面でも一つの材料といいますか、きっかけといいますか、項目の一つに地震が占める割合が大きいということで入れてもらえればなど、そう思っています。

新野議長

本来、天災は分けるんですかね。

木野所長

来年度のシナリオは当然、地点が決定してから、またいろいろ調整をさせていただくんでしょうけれど、まあ、複合災害も考えていくのかもしれないですね。ちょっとそこまではわからないですけど。

新野議長

逆に、通信のこう、うまくいかなかったというのは、防災訓練ではもしかしたら出てこなかったんじゃないかと私は個人的に思っているんですけど、たまたま現実のこの地震があって、初めてこの連絡がうまくいかなかった、それで災害というか、結果的に何か大きなことがなかったのが幸いなので、またこういうことを生かして、もし、来年度ですか、やるときにはまた全然違うレベルの話に進むんじゃないかと期待するんですけど、そういう意味も含めて、また、よろしくお願いします。

武本委員

地震は、新潟地震から40年をみたいな、滅多に起こらない現象ですが、昨日、今日みたいな雪は、何か、今、テレビでは、19年振りとか何か言っているけれども、我々の感覚ではしばしば起きる。そして、昨日は高速道路は全部止まっていたよね。今日も自動車も止まっていますよね。こういうことはしばしばあって、多分防災計画の前提みたいなものが、何かあったら東京から飛んできますとか、新潟から高速道路を使って行きますとかということが前提だったわけですね。そういう、一つだめになったというか、要するに、昨日、今日みたいなことは、しばしばというか、時々起きると。こういうぐらいのことでも対応できるような準備はしていただいたいという思いがありますね。それだけちょっと。

木野所長

いろいろちょっと、また今後調整させていただきたいと思いますが。

新野議長

そうですね。また地域の環境が色濃く出る防災になるといいと思いますね。

あとは、では、川口さんは、先ほどの宮崎さんに多少ありますか。ちょっと補足していただいて。とめないで議論していただくのが非常にいいかと思います。

川口委員

議論にはならないんですけど、実際問題、私は別に原子力発電所について推進であって、別に不祥事が起きたりとか、事故が起きたりとか、故障が起きたりとか、それに対し

てはちゃんとやってくれと、普通の、どっちかというのと、推進とかというんじゃないで、自分がニュートラルだと思っていますので、だめなことはだめというのははっきり言いたいと思うんです。ただ、いつもの会の中では、皆様の方が、要するに同じことをいっぱい言っているの、ただそれと同じことを私が言わないだけであって、それだけのことです。

宮崎委員  
ぜひそうしていただきたいと思えますけれども、同感でしたら同感ですと言ってもらうと、新野議長さん、助かるんじゃないかと思えますので。

この前ちょっと言われた、反対意見の人は意見をたくさん持っているんだから、2人ぐらいに絞れというのがなかなかちょっと気になったものだから言ったんですが、そういうことは、制限ということはしないで、ぜひ広く何でも言える会にしていきたいと、こう思っています。

以上です。

新野議長

10分ぐらい、まだ議論の時間がありますから。

佐藤委員

私がさっき来たときに西山町の方がいろいろ話をしておられたので、多分、それぞれ行政の皆さんがそれぞれの立場で話はされたと思うんです。ただ、私は、行政としてというか、新潟県、柏崎市、刈羽村、西山町、そこでやっぱり総括をするんだったら、一定の結論を出してもらいたいかなということで行政としての総括ということをお願いしたのであって、それぞれが皆さんがいろいろおっしゃったということを経済というふうには私は受けとめて言ったわけじゃないので、ただ、それぞれの表明があったというのは私も知りながらその総括という話をしたんで、それはもう済んでいるよということには必ずしもならないのかなというふうにして、さっきそういう発言をさせてもらいました。

川口委員

正直言って、地域の会はそれなりに成果があったと僕も思います。ただ、一つ思うのは、多分、ここに出てきている人は成果があったと思うけれど、市民とか住民のどれだけの人が成果があったと思っているかということが一番重要じゃないかなと思います。一つには、国にしても、保安院にしても、東電にしても、この会で言えばそれで終わりなんだよということでは絶対ないということで、やっぱり他の全住民に対してきちっと広報、市も、村も、町も、やっていただきたいなと思っておりますので。決してこの会でやれば終わりということではないと十分わかっていると思えますけれども、何となくそんな雰囲気になるのが嫌だなと思えますので、よろしく願いいたします。

新野議長

よろしいでしょうか。早目に終わるには文句はないでしょうから。もし御意見がないようでしたら、ここにアンケートのたたき台でつくっていただいたんですが。これ、前回、アンケートを事前にお配りしますと申し上げた時には、具体的なアンケートのイメージがなかったんですね。実際に皆さんから出た意見を集約していただいたりして、どんな意見が多いのかとか、どういうところで答えていただけるものなのか、その一言、○、×のようにして答えていただくにはどういう項目が適切なのかというような具体的な案を絞ってきますと、なかなか非常に難しい問題なんですね。結局簡単に答えていただくという、

この程度の項目にしかありませんで、本当に一番重要なのがもしかしたら抜けているのかもしれないんですが、それはやはり生の議論でやらせていただくしかないのかなと思っています。

これ、アンケート結果が、例えば(1)の(a)が大多数だったとしたら、これをでは多数決によって、とるというのではないアンケート調査で申しわけないんですが、重要な参考資料にさせていただくということで、これを踏まえてどこがということになるんですけど、私たちは、御存じのとおり、前柏崎市長である西川市長からの委嘱状をいただきましたよね、2年前のことですけれど。この次がどうなるのかはよくわかりませんが、何ていうんでしょうね、やっぱり行政が発起人的なところの音頭取りをしてくださったので、人数を減らすとか減らさないとかということも含めて、本来、この24人で決めてもいいのかもしれないんですけど、やはり市民の代表であるような立場からするとそうもいかないだろうということで、また、行政、事務局さんとか、いろいろな行政の方、柏崎市ばかりじゃないので、そういうところの御意見も参考にさせていただきながら次に繋げていかざるを得ないだろうと思っています。

これはあくまでも24人の意思ですということで、重要な参考資料として取りまとめさせていただこうと思いますので、決して多数決で簡単に決めるということには多分ならないので、それだけは御承知おきいただいて。で、見ると、やっぱり簡単なんですよ。先ほど、前回と今回の皆さんの、また御本人外の御意見も参考にさせていただいて、ここに何らかお答えをいただければありがたいかと思うんですが。これを書いていただいて、お帰りのときに提出していただきたいと思います。お願いいたします。

一番下のテーマというのは、もし今日書けなければ、また、これはこの項目だけで事務局にファックスでも送っていただければ、今日わからなければ何ができないことではないので、またそれぞれ思いつきましたら、ここ、こんなテーマは随時送っていただければと思います。ここは、万が一、空欄でも、今日お出しいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

それで、アンケートを書いていただくと大体30分を超えるんだろうと思いますので。これ、でも、あれですよ、人の話が上の空になってはあれだから、5分ぐらいで集中してぱっと書いていただければ。

これ、万が一して複数回答ができるようなところがあれば複数回答をしていただいているので。

#### (アンケート記入)

何となくずっと水曜日に限定されてきてしまっているんですが、これも先ほどの今井さんの御意見じゃないですけど、ときどき別の曜日に振った方がよかったですでしょうか。

今度は新しい委員さんでまた曜日を調整するんだろうと思うんですけど、もしかしたら、全く一つに統一しない方がいいのかもしれないですね。

では、次回のことなんですが、運営委員会では3月2日のまるっきり1カ月後を予定しました。3月2日を予定して、運営広報委員会で、前回のお話の、前回からの流れで、新市長と新電力所長さんにおいでいただいてというようなお話で調整していたんですけど、市長さんは何とかご都合をつけられるかもしれないんですけど、所長さんが、もう、予定が入られてしまっているんで、あと、では刈羽の村長さんはどうなのかと、今度、いろ

いろな方の時間調整が一月でとてもできないのと、あと、1年に1度はそういう村長さんとか町長さんも含めて顔合わせをするというような流れで来ていたのに、今年度、ずっと、今のところはないわけですね。なので、4月に、2カ月をかけて、上手に調整していただいて、それこそそういう方たちに一堂に会していただいて、私たちの反省を踏まえて、次の2年の任期の方に送るというような形でさせていただこうかと思うんですけれど。3月2日に市長と所長さんというのは、今ちょっと、片方が御都合がつきませんので、もう一度流していただいて、4月に再調整させていただいて、それが私たち2年の最後の会になるかと思うんですが、そういうふうに組みかえさせていただこうと思うんですが、よろしいでしょうか。

それで、前回は申し上げただけけれど、私たちはそういう正式な委嘱状を任期を含めていただいているのをお受けしてしまった身なので、ここで、3月で失礼というわけにはいかないで、4月末まで超えていただきますけれど、次の方には最初からもう変則で、丸々24カ月じゃなく、23カ月でお受けいただいて、そして、どこかで3月末というのに合わせたらいかがだろうか、私、個人的に思うんですが、いかがでしょうか。まだどなたが受けるかわからない段階でそれをOKしておけば何の支障もないかなと思いますので。やっぱり年度はそろっていた方がいろいろな意味でやりやすいかと思っておりますので、次の任期の方には23カ月でお受けいただくように進めていきたいなと思っております。3月は日にちだけ、一応3月2日というふうに決まっているんですけれど、御都合がどうしてももうはつきりつかないという方がたくさんいらっしゃればまた。この中ではいかがですか。

議事内容は本来はちょっと違うニュアンスで計画していたので、今ちょっと発表できる段階じゃないんですが、こういうことを取りまとめたり、事務局や行政の方との調整で、私たちが年度を終わるに当たっての、次年度に引き継ぐ委員の方との調整をどういうふうに持っていかとか、そういうものも、本当は遅いぐらいなんですけれど、そこでそんな会を、アンケートの結果とか、そんな会にさせていただくことを次の運営広報委員会あたりで、またたたき台をつくっていただいてご案内を差し上げるという形でよろしいでしょうか。日にちだけ。何か議事があれば。

ここに、視察研修先というプリントをつくっていただいているんですが。研修は、皆さんにまずアンケートをとらせていただいたら、福島と同じような地域の会のような、メンバー構成が大分違うんですけれど、そこと接触ができればそれを望むというような複数回答と、あと、放射線医療とかの、そういう研究所を見てみたいという御意見と、あとは、青森の六ヶ所村へ行きたいという意見が本来一番多かったんですけれど、それはちょっと時期が2月ではということで、次年度ということを大分前に申し上げて了承をいただいて、福島と、千葉の放射線医療の方と、その二つが残っていたんですけれど、放射線医療の方が大きな見学が入ってしまって、私たちの方にはとても対応ができないというようなお返事なので、それは日程的に組み入れられなかったんですね。福島の情報会議の方は、ほんの今日、昨日ぐらいまでずっと調整を事務局の名塚さんの方からしていただいていたんですけれど、結論がこう出たようなので、名塚さんの方からお願いします。

名塚係長

では、お手元の「視察研究先について」というのをご覧いただきたいと思っております。

日にちの方は、前から一応、2月25日金曜日、26日土曜日ということで、日だけ先に決めておまして、先ほど新野議長の方から話がありましたように、千葉の放射線医学総合研究所につきましては、もうその日に、25日金曜日の日に視察が入っておりましたので、ちょっと対応できないということでございます。かわりにもう一つ、案として事務局の方から提案させていただきたいのは、石川県の志賀原子力発電所ということで上げさせていただきます。

まず、福島の所在町情報会議というのがございまして、(参考)にありますように、こちらの地域の会と同じように、不正問題の再発防止ということで、平成15年2月に発足といたしますが、第1回の会議が始まっております。こちらの方は年4回の開催ということで、所在の四つの町のメンバーとして、自治体の助役、商工関係ということで商工会の会長とか、青年部長、女性部長、農林業関係ということで、農協とか、漁協の組合長、行政区長会というのが向こうはございまして、その区長会の方とか、福祉協議会とか、婦人会とか、あと、原子力安全連絡会とかというのがございます、そういう会長ということで、そういう方がなっておりますし、あと、両発電所長、学識経験者の方、23名の方が委員になっております。任期が2年ということで、向こうの委員の方はどちらかというとなんかの長をやっておられる方がなっております。

日程につきましては、25日の日に向こうの日は一応開催するというので決ましまして、意見交換も一緒をお願いしたいということでお願いしておったんですけども、事務局の担当されている方は意見交換はぜひともしたいということだったんですけども、他の担当の幹事の課長さんといいますか、やはりちょっとこちらの地域の会に感化されるとまずいとか、ちょっと懸念があったということだそうで、意見交換の方はちょっと対応できないということでお話がございました。傍聴でしたらOKですということで、日程的にも本当は25日と28日の2つの候補が上がっておりまして、先方の方も大分気を使っていたかまして、25日に合わせていただいたわけなんですけれども、残念ながら意見交換の方はできないということです。26日の方はまだ決まっていないんですけども、発電所を視察するとか、町の状況を見るのはどうかなというふうに考えております。

もう1点が、北陸電力の志賀原発ということで、こちらの方は2号機の方が建設の最終段階ということで、今、建設している発電所というのは、御承知のとおり、数少ないということで、もう運転してしまうとなかなか発電所の中を見れないところがありますけれども、建設の最終段階で、まだどこが見れるか、ちょっとその近くにならないとわからないということなんですけれども、もう運転してしまっただけからは見れないようなところも見れるんじゃないかということで、正式にお願いするときにも、そういうところをぜひ見せていただきたいというふうをお願いしたいと思っております。

両方とも、一応、福島の方も、石川の方も、お願いした日については、もし実際に実施するとなれば対応できるということでアポイントは一応とっております。

新野議長

ありがとうございました。

補足ですけども、1番の方は、同じ任期が2年で終わられるわけなんです。そして、やっぱり2年間の総括というような、多分、会になるらしくて、私たちと、今、やっていること、同じようなことをされるんだろうと思うんですけど、30分でもいいからとい

う交渉で、最後まで意見交換の方にこだわらせていただいて、要請していただいたんですけど、逆に何か多少警戒されてしまったのか、ちょっと危なげにお断りいただきましたので、そうなる\_todoまで意義があるのかなと。意見を聞かせていただくだけでも意義がないことはないはずなんですけれど、当初の予定どおりということにはならないということが1ですよ。

2の方は、多分、2010年までの、もう4基だったのが、1号動いたから、あと、残りの3番手になるのかな。あと、次、もう二つ、どこかで動くんですけど、10年までの現実に新しく動き出すであろう原子力発電所というのはもう残りわずか、たまたま私たちが視察したいときに、また、しかもこういう原発が稼働する前を見せていただくというチャンスが早々はないだろうということが、たまたま今回、こういう機会をご提示いただきました。次の、多分、先、2010年以降も6基を国の方は予定しているんですけど、これは多分そうはならないだろうというのが大方の見方ですので、本当に残りわずかなので、先ほど宮崎さんがおっしゃられたように、生で見ながら勉強するようなことがもし可能性とするとあるのはあるんですよ。ただ、自分たちがのほほんと見るのか、何を見るのかと多少目的意識があれば、それなりの見学成果はあるのではないだろうかと感じてはいます。ほんとは一回勉強会みたいなのをして、これに挑むと効果的だったのだろうと思うのですが、残念ながら日程が厳しいのですけれど。それでこの2つを事務局のほうから提案をいただきましたので。

それから阿部さんが最後までこだわられた千葉の方の放射線医療の方なんですけれど、これは、近い将来というか、六ヶ所が、来年度、皆さんの最有力に入っているんですけど、私も、文科省が管轄しているのかどうかわかりませんが、三つか四つ、見せていただいたんですけど、すごく感動するというか、原発とはまた切り離して、核の有効利用みたいな方で企業のそういうものとか、医療とか、そちらからもまた廃棄物が出るわけで、そういうお話なんかも聞かせていただいたり、それはそれで知らないところがすごくあるんだなというようなことを含めて非常に驚かされました。見る機会があれば非常にいいなと思うんですけど、今回は残念ながらだめでした。

これ、もう時間がないので、できれば今日は15名しかいませんけれど、このどちらかを選択していただいて、希望者が多いようでしたら成立させますし、今回、あまり参加者が残念ながらということでしたら、ここまで来たらちょっと今年度は中止させていただこうかと思っていますので。もし、今即答できない方があれば、二、三日は、今日、欠席している方もいらっしゃるので、時間調整は当然必要なので、二、三日、多分待つだけかと思うんですけど。

出られそうな方、いらっしゃいますか。日にちはもともと申し上げた日ではないです。

それでは、もうとてもお仕事が多忙で御都合がつかない方をお聞きしましょうか。

(挙手)

新野議長

今日欠席している人がどうなのか。やっぱり、行こうと思えば頑張って行けそうな人という人、手を挙げてみてくれますか。今現在、参加可能な方。

(挙手)

新野議長

それでは石川県と福島県とどちらがご希望でしょうか。

佐藤委員

福島のほうは会議の傍聴だけのようなので、石川のほうがいいように思うが。

新野議長

それでは石川県をご希望の方。

( 挙手 )

新野議長

今、5名でしたっけ。では、2の方で、今のこの5名と、あと、今日の欠席の方とで調整して、人数が成立するかどうかはその後ですね。それでよろしいでしょうか。

では、正式に2の方を採用させていただいて、では、全員に、この2の案で御案内をするそうです。再度、今、欠席と言った方も、出席と言った方も、もう一度意思表示をして事務局に返してください。お願いします。

去年は事務局さんを含めて半数だったんですね。だから、厳密には10名ぐらい。10名の参加で成立ですかね。

( 委員了解 )

新野議長

去年も14名ぐらいですね。事務局を入れて。

ただ、見るだけじゃなくて、行き帰りにまた委員さん同士の意思の疎通というのは思わぬところで結構図れるもので、伊比さんも、前回、何か意見の中にそういうふうに組み入れてくださったんでしたよね。

伊比委員

そうですね。ぜひ、実施していただきたいと思いますが。

新野議長

経験者の方はそうおっしゃっていますので。

では、アンケートの方を完成させていただいて……。

川口委員

26日が視察ということであれば、26, 27日という日程も可能では。土日のほうが、参加できる人もいるのでは。

新野議長

それならば出られる方、いらっしゃいます。平日を使わずに、土日で行けば。前はどうしても1日は平日が絡まなければならないという条件があったので、金土か、日月の組み合わせしか考えられなかったんですね。今回、降ってわいたような新しい案ですと、土曜日は見学が可能なんですか。多少の内容変更でも、この最大目的が達成できれば…。

新野議長

では、両方を合わせて、2パターンで希望をりますか。

( 混乱するのでは... ) 一同

新野議長

では、土日にします。

では、土日に振り替えるそうですので、また皆さん、再度検討して。

日にち変更の御案内を差し上げるそうです。

では、もう10分残っていますが、特に御意見がないようでしたら、異例のことで10分早目に閉じさせていただいてよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20：50閉会・・・・・・・・・・・・・・・・